SYAKAIKA

受賞作品｜社会科部門

〈総評〉

今年の社会科部門は、海外への渡航規制が解除され、多くの外国人観光客が日本に戻ってきている影響なのか、共生社会への意識の高まりを感じさせる作品が多く見られました。
併せて環境保全を意識したもの、国際情勢に目を向けたものなど、社会問題と真摯に向き合った作品が多かったように感じます。また、実際に現地へ赴いたり、研究対象に関わる人物にインタビューをしたり、机上の研究に終始していないものが多かったことも、大変よい傾向です。百聞は一見に如かずといいますが、フィールドワークによって得られる情報は貴重です。今後も積極的に外へ出て、研究を続けていってほしいと思います。一点、今回の作品の特徴として、研究の経過に関しては深く練り込まれていた半面、結論や今後の展望については、十分な考察がなされていないものが多かったです。もちろんすべての研究が明確な結論を導き出せるわけではありません。思うような結論が得られなかったときに、「なぜそうなったのか？」「どうすればそうならなかったのか？」をもう一歩、掘り下げて考える力を身に付けることで、次の課題が見えてくることもあります。来年も、皆さんの新たな発見、気付きに出会えることを期待しています。

文部科学大臣賞

成田ジュニア版・独自緊急地震速報
チャイム音の設計・開発
千葉県　成田市成田ジュニアストリングオーケストラ
「災害と音楽」探求チーム

子どもの文化・教育研究所理事長賞

『おいがだも、こさいでいいガァー？』
～「カラス」と「人間」の「共存」について考える～
山形県 鶴岡市立朝暘第三小学校 ６年
上野 龍明

日本社会科教育学会会長賞

AIと色々な職業
東京都 白百合学園小学校 ４年
森 千香子

中央出版株式会社社長賞

広げる 広がる えごの魅力
山形県 鶴岡市立朝暘第三小学校 ６年
佐藤 章

優秀賞

外国人へとどけたい やさしい日本語
宮崎県 宮崎市立恒久小学校 ３年
山中 大地

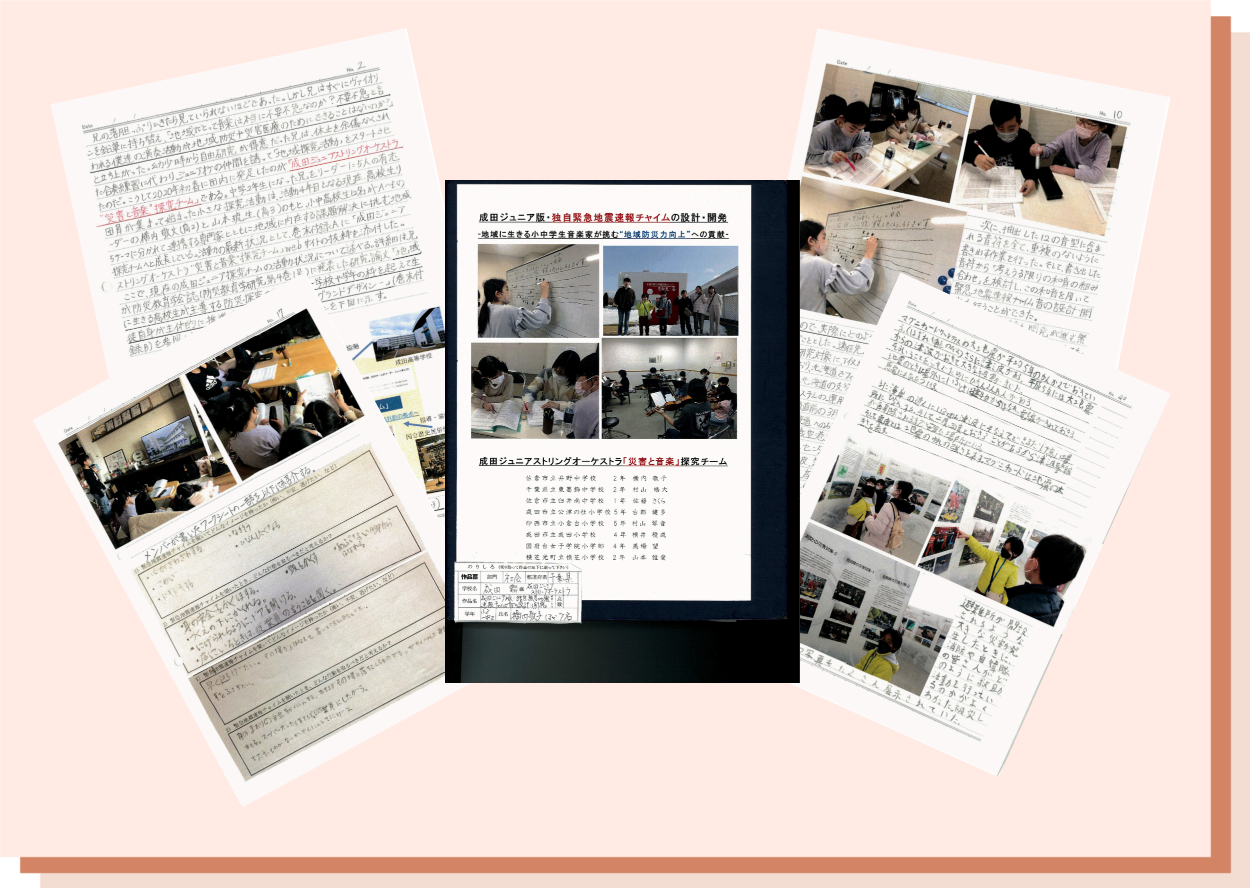
夏のBig Challenge!!英語でインタビュー!!
外国の人に好きな漢字聞いてみた!!
茨城県 土浦市立乙戸小学校 ５年
吉田 歩夢

海の生き物たちをごみから救うために、
私たちができること2023
愛知県 愛知教育大学附属岡崎小学校 ６年
佐藤 朝

文部科学大臣賞

成田ジュニア版・独自緊急地震速報チャイム音の設計・開発

「災害と音楽」探求チーム｜千葉県 成田市成田ジュニアストリングオーケストラ



〈選考理由〉

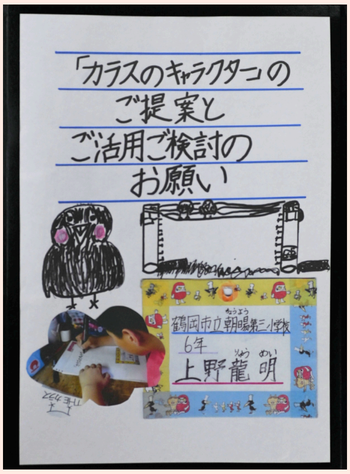
成田ジュニアストリングオーケストラは、小・中・高校生からなる地域の弦楽合奏団です。2020年、新型コロナウイルス感染症によるパンデミックを受け、演奏活動の厳しい制限を受けたオーケストラは、「本当に音楽は不要不急なのか？」「オーケストラとして地域防災に貢献できることはないのか？」という疑問を胸に立ち上がり、「成田ジュニアストリングオーケストラ"災害と音楽"探求チーム」を結成しました。本作品では、オリジナルの「緊急地震速報チャイム」の設計・開発にかかる、およそ1年間の活動が克明に記録されています。防災施設でのフィールドワークはもちろん、既存の緊急地震速報チャイムが心理的に及ぼす影響や、人々の不安感や切迫感をあおる音色の考察、ベートーヴェンやモーツァルトが作曲した名曲の解剖など、その研究内容は多岐に渡り、類まれなる探求心を感じます。これは紛れもなく、チームの皆さんがより良い演奏のために、楽曲の生まれた時代背景や作曲者の生涯を読み解く作業を行ってきたことで培われた力だと思います。実際に開発・演奏されたオリジナルの緊急地震速報チャイムも拝聴しましたが、研究の成果が一音一音に表れており、チームの皆さんの強い想いが感じられました。今後も「オーケストラだからこそできること」「オーケストラにしかできないこと」を追求していってください。

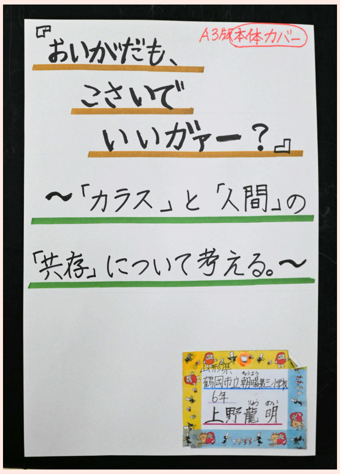
子どもの文化・教育研究所 理事長賞

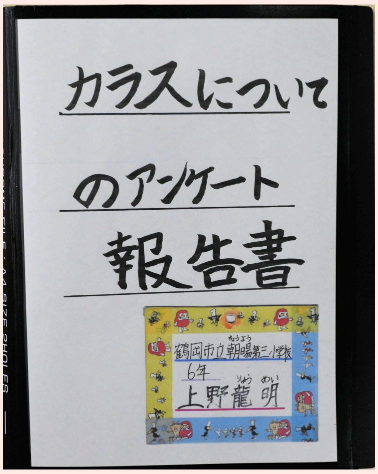
『おいがだも、こさいでいいガァー？』

～「カラス」と「人間」の「共存」について考える～

上野 龍明｜山形県 鶴岡市立朝暘第三小学校 ６年







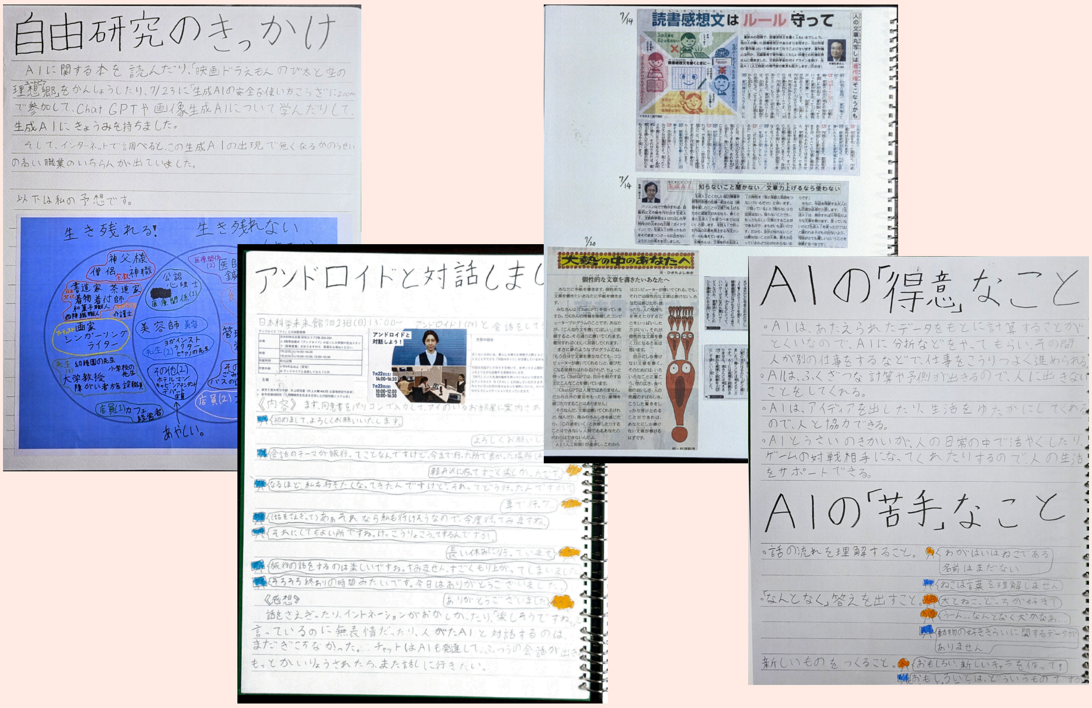
〈選考理由〉

以前、「好きな鳥は？」という質問に「カラス」と答えたところ、「カラスはやめよう」と言われてしまい、ショックを受けた龍明さん。フンの被害や、古い言い伝えによるイメージから忌避されがちな「カラス」と、「人間」がどうにか共存できる方法はないかと調査を開始します。ただカラスの生態を調べるのではなく、「なぜカラスを嫌う人が多いのか」というマイナス面を徹底的に掘り下げなければ、共存に向けた提案を取りまとめることはできません。自分の好きなものによって被害を受けている人が実際にいるということは、龍明さんにとっても胸の痛む事実だったと思います。そこと真正面から向き合い、結論を導き出している点が高評価につながりました。山形県内35市町村へのアンケートや、鳥害に悩まされる農家の方々へのインタビュー、さらには電信柱につくられた巣を撤去する作業の見学など、その探求心の深さと高い行動力に驚かされます。龍明さんの熱意が、今回の研究に関わった方々に伝わり、改めてカラスについて考える機会ができたことで、カラスに対する印象が変わった人もいるでしょう。カラスと人間が共存できる未来に向けて、更なる挑戦を期待しています。

日本社会科教育学会 会長賞

AIと色々な職業

森 千香子｜東京都 白百合学園小学校 4年



〈選考理由〉

インターネットや映画を通して、生成AIに興味を持った千香子さん。実際に働いている人から「AIについてどう思うか」を聞いてみたいと思い立ち、全く異なる職種に携わる32人の方へインタビューを敢行しました。質問内容は「自分の職業はAIに取られてしまうか」、そして「AIと共存するためには」の2つ。管理栄養士や医者、西陣織職人にキャビンアテンダント、鍼灸師、僧侶など、登場する方々の職種は実に様々で、取りまとめられた回答も非常に興味深いものになっています。「将来AIに取って代わられる職業」の一覧まで作られるほど、私たちの生活に影響を与えているAI。千香子さんが一人ひとりと直接対談し、「AIについてどう思うか」を掘り下げて分かったことは、どの職業に携わる人も、自分の仕事に誇りをもっているということでした。自分の仕事が完全にAIに奪われると考えている人は一人もいなかったこと、どの仕事にも人間にしかできない部分があるという回答には、千香子さん自身も勇気づけられる部分があったのではないかと思います。今後はAIと人間が共存し、より良い未来をつくっていくために何ができるか、ということが地球のテーマになっていくかもしれません。千香子さんもぜひ考えてみてください。

中央出版株式会社 社長賞

広げる 広がる えごの魅力

佐藤 章｜山形県 鶴岡市立朝暘第三小学校 ６年

〈選考理由〉

庄内の伝統食である「えご」が大好きだという章さんは、2年前からえごについての研究を続けています。その熱量はすさまじく、実際にえご漁にも行ったことがあるほど。庄内以外でもえごが食べられている地域があると知った章さんは、北前船の寄港地と何か関係があるのでは、と考え、北は北海道、南は山口県までの各自治体へアンケートを送り、調査を開始しました。全ての地域でえごが食べられていたわけではありませんでしたが、離れた地域でも似たような文化が伝わっていることがあり、文化の伝搬の面白さを感じます。アンケート調査だけではなく、えごの魅力をより多くの人に伝えるため、地域団体が主催するイベントでえごについてプレゼンした様子も記録されており、発信にも力を入れている点が評価につながりました。地元の漁師さんへのインタビューや、えご料理にもチャレンジするなど、一つのテーマについてここまで掘り下げることができる好奇心の強さ、そして抜群の行動力が光ります。今後も章さんの「好き」を貫き、研究を続けていってほしいと思います。